

仙台高等専門学校 令和5年度 数理・データサイエンス・AI教育プログラム にかかる自己点検・評価

評価日時：令和6年3月29日

会議名称：評価・改善統括室会議

開催場所：仙台高等専門学校

目的：令和5年度の数理・データサイエンス・AI 教育プログラムにかかる自己点検・評価

評価項目：文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度」の審査項目（リテラシーレベル）、認定申請（応用基礎レベル）の観点による評価

自己点検・評価の観点	自己点検・評価	審査結果	コメント
プログラムの履修・修得状況	履修者の状況についてはクラス担任や授業担当の教員にて情報共有をしているとともに、教務企画室において履修状況や単位取得状況を取りまとめ状況把握を行っている。本プログラムの対象科目は、必修科目を中心にし、選択科目についても履修を希望する全ての学生が履修できるよう時間割を構成している。更に、プログラム修了要件と履修すべき科目を学生に説明することで履修を促している。以上の取組より履修率を高く維持できる。	A	
学修成果 学生アンケート等を通じた学生の 内容理解度	各授業担当者及び教務企画室にて履修状況・単位取得状況を把握している。また別添資料に示す授業評価アンケートを実施して科目担当者にも結果を共有しフィードバック・改善を行っている。アンケート結果より受講学生の理解度等は高いと判断できることから、学修成果が示されている。	S	
他の学生への推奨度	本プログラムに関わる科目は主に必修科目で構成することで学生の履修および修得を促している。また、選択科目については全学生が履修できる時間割とするとともに事前ガイダンス等で十分な内容説明を行っている。	A	
全学的な履修者数、履修率向上に 向けた計画の達成・進捗状況	関連科目の全学的な履修率は必修科目で100%、選択科目ではリテラシーレベル1科目で約90%、応用基礎レベル1科目で約31%となっている。応用基礎レベルの選択科目は令和5年度は3月に集中講義形式で実施したこと、事前の周知期間が短かったことから、今後は実施時期の最適化と更なる学生周知・説明により履修率向上が図れる。	A	総合科目の開講に際し、十分な周知期間を設けることで学修内容への興味・関心を高め、履修率向上を図る。
教育プログラム修了者の進路、 活躍状況、企業等の評価	令和5年3月に本プログラム（リテラシーレベル）を修了した学生のうち、卒業生においては、企業・大学等から十分な評価を得て就職進学している。	A	
産業界からの視点を含めた教育 プログラム内容・手法等への意見	本校の企業協定会 会員企業へのアンケートでは数理・データサイエンス・AIを学んだ学生への期待と採用を望む企業が増えており、その意見を参考にして教育プログラムの内容および手法について検討・改善を図っている。	A	
数理・データサイエンス・AIを 「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	単なる知識教授ではなく、授業において社会での利活用について示すとともに、実データを用いた実習を含むことで「学ぶ楽しさ」や「学ぶことの意義」を理解させている。	A	
内容・水準を維持・向上しつつ、 より「分かりやすい」授業とすること	授業評価アンケートに基づき授業改善を継続すること、変化が速い最新の情報・動向を常に意識して授業に取り入れることで、内容・水準を維持・向上しながらより分かりやすい授業を実現している。	A	

【審査基準】

S: 審査項目の観点を上回る成果を達成した。

A: 審査項目の観点通りの成果を達成した。

B: 審査項目の観点通りの成果を達成できなかったが、達成に向けての対応策が立案され、対応に着手している。

C: 審査項目の観点通りの成果を達成できなかった。達成に向けた対応策が立案されていない。